

事業名称	SNS と大学博物館展示機能とを融合させた紀州地域とその文化資源についてのオープンアーカイブスの構築			
実行委員会	紀州経済史文化史研究所地域活性化事業実行委員会			
中核館	和歌山大学紀州経済史文化史研究所			
	住所	〒640-8510 和歌山市栄谷 930 番地 和歌山大学内		
	TEL	073-457-7891	FAX	073-457-7890
	ホームページ	http://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/		
構成団体	和歌祭実行委員会、和歌山市立博物館、加太大護摩顕彰会、葛城修験二十八宿連絡協議会			
事業開始時点の課題分析	<p>大学博物館としての本研究所の使命は、紀州地域の経済、文化の研究及び人と自然に関する研究やその成果の公開・展示を通じて、国内外における紀州地域学研究与地域社会の発展に寄与することにある。また、本研究所は、それぞれ多様・独創的かつ最新の研究成果を有する本学教職員の中から自由意思によって参画しようとする所員の企画から成る展覧会を開催・運営し、その調査活動や公開講座の運営、成果報告としての展覧会図録の発刊に至るまでをマネジメントすること等によって、地域社会の学術的な「核」として、公立館にはない大学博物館という強みを最大化しようと試みている。その結果として、祭礼・民俗芸能等に関わる地域社会の団体や、地域の貴重な文化財を有する寺社からも信頼を受け、展覧会とその図録は、地域のみならず、関連の研究者コミュニティからも高い評価を受けている。</p> <p>しかしながら、本研究所の使命である「地域社会の発展」等について検証してみると、いまだ不十分な点も析出できる。たとえば、地域の文化財・文化資源に「もともと関心の高い層」の人々には従前の方法によって地域の文化資源の価値は届いているのだが、「関心の低い層」にはこちらからの情報が届きづらいという点がある。有形無形の文化財を保全・継承するためには不断の努力が必要であることは改めて述べるまでもないが、特に高齢化・過疎化の著しい紀州地域においては、地域の団体等と協力した啓蒙活動がより重要であろう。特に保全・継承という観点からすれば、10～20 代の若者層の関心を引きつけたり、小中学校と連携することで、未来の文化継承者を育成することが肝要である。本事業では、本研究所がこれまでに組み立ててこなかったこれらの観点を取り上げ、改善を目指すこととしたい。</p>			
事業目的	<p>上記のような課題に対応するために——従前の方策では文化財の価値や意義が届きづらかった層に積極的に情報を届けるために、本事業では、従来どおりの展示活動を行なうだけではなく、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、SNS）を用いて、様々な世代、多様な関心を持つ地域の人々の生活に密着したデジタル・ソーシャル・ネットワークのなかに、地域の文化財・文化資源についての「物語」（文化財の来歴や意味付けとなる情報）を飛び交わせることを目指す。そして、様々な「仕掛け」を施した展覧会を観覧すること、我々が企画する体験型ワークショップ・イベントに参加することや地域の小中学校等の学校現場と共働することによって、デジタル・デバイス上のものでしかない個々のネットワークを、文化財を取り巻く実体的な人と人との社会的関係（たとえば本研究所がこれまでも取り組んできた「和歌祭における祭礼芸能」に参加すること等）に遷移させることを試みたい。</p>			

加えて、SNSは、従来型の展覧会・情報発信（博物館から観覧者へ。A to B）という形だけではなく、①実際に観覧・体験した人から本研究所へ（B to A。アンケートタイプ）という形はもちろん、②実際に観覧・体験した人々相互の情報共有・議論（B and B）という形、③観覧・体験できなかった人々・元々関心の薄かった人々をも巻き込んだ情報共有・議論（B and C）を促し、また④それらの議論がまた本研究所に届けられるという可能性（from B and C towards A）も秘めている。このような特性を活かし、本研究所に所蔵・寄託される文化財のみならず、他館や地域の寺社に所蔵される文化財、民俗芸能やそれを伝承・維持しようとする営みとしての文化資源のそれぞれが、紀州地域の社会に暮らす人々にとって、あたかも「自分たちの文化財・文化資源」であるかのような感覚を抱かせるような仕組みを構築したい。本事業では、文化財それぞれの情報が開かれ、また相互に繋がり、その繋がりが地域社会にも連なっている「開放系の文化財収蔵庫」——オープン・アーカイヴス——を地域に現出させることを最終的な目的とする。そして、地域社会におけるこのような役割は、各分野のスペシャリストを教職員という形で保持しながらも小回りの利く、地方国立大学の研究組織を兼ねた大学博物館にしか担えないものであると考える。

事業概要

本事業は、今年度、本研究所が企画する特別展・企画展（Ⅰ・企画展「和歌祭と現代」、Ⅱ・企画展「和歌山大学の高商資料」、Ⅲ・企画展「扇踊り」、Ⅳ・特別展「葛城修験二十八宿の世界—友ヶ島・加太・中津川の儀礼と信仰」）の展示活動と、それぞれに関わって、学校教育と連携しつつ、あらゆる人々が参加できる公開講座によって、紀州地域に伝存する文化を発信することを核とするものである。加えて、本事業では、これらの地域の文化財・文化資源についての情報や意義づけのための「物語」をSNSを通じて発信することによって、地域の多様な文化を継承しうる実体的な社会関係の形成を促すのみならず、当研究所、他館、地域の寺社に存する文化財、無形の民俗芸能とそれを保全しようとする社会システムといった文化資源についての情報が行き交う「オープン・アーカイヴス」の構築を目指す、地方国立大学を母体とする大学博物館の社会的使命とも合致するモデル事業的性格を備えている。

公開講座としては、より研究者コミュニティに特化した公開シンポジウムはもちろん、地域の人々を主な対象とした体験型ワークショップ、加えて、教育学部を有する地方国立大学としての強みを活かし、学校教育現場と連携したワークショップも開催する。また、画像中心のSNSであるInstagramやTwitterとより親和性の高い展示企画の仕組みや、自由参加型イベント（「紀州の祭インスタコンテスト」「街中の不思議な石碑を探そう」等）を随時企画する。また、各展覧会企画でとりあげた文化財についての詳細な「物語」についての動画番組を作成し、TwitCastingやFacebookなどの動画視聴に適したSNSで配信し、より深い関心獲得を目指す。加えて、シンポジウム等のライブ配信を行なうことで、国内外の研究者コミュニティの要請にも答えるものと推定される。そのような目的に応じたSNSを用いつつ、紀州地域の文化財・文化資源について発信してゆくことで、地域住民・研究者や、他地域の人々、文化財に関心の薄かった人々を巻き込んだネットワークが現出する。それが実体的社会関係の形成をもたらしくことも目論むが、第一義的には、紀州地域の多様な文化とその「物語」についてのオープン・アーカイヴスが、意図的かつ結果的にデジタル上に形成される点に本事業の特質がある。

<p>区分</p>	<p>(1) 地域の歴史, 地域の有形無形の文化財との連携, 地域の人材交流</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化財の魅力発信</p> <p><input type="checkbox"/>イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化</p> <p><input type="checkbox"/>エ 専門人材の育成・確保</p> <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施</p> <p><input type="checkbox"/>イ 美術館・歴史博物館クラスター(集積地)としての広報活動</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1 公開講座と大学博物館内での展示による地域へ普及・啓蒙事業</p> <p>(1) 事前調査事業</p> <p>① 和歌祭祭礼調査 (調査 I a)</p> <p>(2) 公開講座(イベント・ワークショップ・シンポジウム) 関連事業</p> <p>① 「和歌祭御船歌練り歩き」イベント (公開講座 I a)</p> <p>② 市内小中学校向け「和歌祭芸能体験ワークショップ」 (公開講座 I c)</p> <p>③ 葛城修験の道・体験ワークショップ (公開講座 IV a)</p> <p>④ 葛城修験の文化財をめぐる公開シンポジウム (公開講座 IV b)</p> <p>(3) 地域社会への発信と成果還元を目指した特別展・企画展の開催</p> <p>① 企画展「和歌祭と現代」展の実施 (展覧会 I)</p> <p>② 企画展「和歌山大学の高商資料」展の実施 (展覧会 II)</p> <p>③ 企画展「扇踊り」展の実施 (展覧会 III)</p> <p>④ 特別展「葛城修験二十八宿の世界」展の実施 (展覧会 IV)</p> <p>⑤ 特別展図録の制作 (図録制作 IV)</p> <p>⑥ 特別展展示資料の運搬 (資料搬送 IV)</p> <p>2 SNSによる情報拡散の基盤整備と発信事業</p> <p>(1) オープンアーカイヴス構築のための SNS 発信と集約事業</p> <p>① SNS での情報拡散についての検討会議 (検討会議 a)</p> <p>② SNS の作成案についての検討会議 (検討会議 b)</p> <p>③ SNS の作成と発信 (SNS 作成発信)</p> <p>④ フィードバックと精査のための検討会議 (検討会議 c)</p> <p>(2) SNS 配信のための番組作成と発信事業</p> <p>① 紀州東照宮祭礼・和歌祭とその文化資源に関する番組作成・発信 (番組発信 I)</p> <p>② 和歌山高等商業学校の文化資源に関する番組作成・発信 (番組発信 II)</p> <p>③ 扇踊りに関連する文化資源についての番組作成・発信 (番組発信 III)</p> <p>④ 葛城修験二十八宿の文化資源に関する番組作成・発信 (番組発信 IV)</p> <p>3 オープンアーカイヴスの成果としてのニューズレターリーフレット発行事業</p> <p>(1) ニューズレターリーフレットの発行事業</p> <p>① リーフレット編集のための検討会議 (検討会議 d)</p> <p>② 地域に発信すべき原稿の収集 (原稿収集)</p> <p>③ リーフレット発行 (リフ発行)</p> <p>4 事業総括</p> <p>(1) 事業総括</p> <p>① 実行委員会会議 (検討会議 e)</p>

	② 報告書の作成と公開 (報告書作成)
実施後の 成果・効果等	<p>Aに関しては、雨天や台風 21 号の影響により実施そのものができなかった場合もあったが、実施できた「和歌祭御船歌練り歩きイベント」「小中学生向け和歌祭芸能体験ワークショップ」「葛城修験の文化財をめぐる公開シンポジウム」を実施した。特に公開シンポジウムに関しては、本事業の主幹部分である SNS による情報発信の成果として、定員 50 名のところを 100 名弱の参加となり、大変に好評を博した。B に関連して、本研究所の展覧会についての情報発信や「対談：移民をめぐる諸相」と題した公開シンポジウムの全編動画を SNS および YouTube において発信し、加えて、本研究所が所蔵する文化財を紹介する動画や所属スタッフの学術的側面を紹介する動画を作成して、発信事業を行なった。その結果として、展覧会入館者の増加、体験イベント（シンポジウムを含む）への一般参加者の劇的とも言えるほどの増加があったが、本事業計画がイメージしていた、弊所の SNS アカウントが中心となって、紀州地域の文化財についての様々な議論や情報提供が行なわれるような空間を創出するまでには至ってはいない。Twitter アカウントは従来のものでなく、本事業に即した新規アカウントを取得したために、当初の目標である 240 には届いていない。新アカウントのフォロワー数は 66 に留まっている。その点だけを取り出せば、本事業の効果は大きくはないことと言わざるをえないが、実際には、入館者・イベント参加人数・メディア（新聞、テレビ、ラジオ）への取り上げ回数・文化財保存に関する問い合わせ件数をみても、大きく増加しており、認知度を飛躍的に増大させる結果となったことは間違いない。また、C のニューズレターに関しても、シンポジウム会場や展覧会会場での無償頒布を行なったところ、大変な好評を博した。D については、本実績報告書に添付するとともに、関係機関および博物館等に配布を行なった。</p>